

## 18 白亜紀ミャンマー産琥珀のハネカクシ類 (甲虫目): 総括と今後の展望

山本 周平 (北大博)

ミャンマー北部のカチン州から産出する琥珀は現在、最も多くの古生物学者の耳目を集めているといっても過言ではない。いわゆる「ミャンマー琥珀」には膨大で多種多様な生物の化石が含まれ、中生代白亜紀“中期”の約1億年前の生物相が良好に保存されている。特に世界最小の恐竜に加え、ヘビ、カエル、鳥類、トカゲといった琥珀として保存されにくい脊椎動物の化石が発表されているほか、軟体部付きのカタツムリや花卉、さらにはアンモナイトまでもが産出している。

しかし何より、豊富に含まれる昆虫化石が中生代の昆虫相解明に顕著な貢献を果たしてきた。事実、これまでに記載された昆虫は1100種を超えており、しかも驚くべきことにその大部分は2010年代に発表されたものである。演者が専門として取り組んでいる甲虫目ハネカクシ科も例外ではない。ハネカクシは6万5千種以上を包含する動物界最大の科であるが、そもそも個体数が多く、小型種の割合が高いことに加え、地表面周辺に生息する種が多いことなどの理由により、ミャンマー琥珀から頻繁に見出される。現時点で既に18亜科44属62種ものハネカクシが同琥珀から記載されているが(表1)、未だに十分に全貌が把握されているとは言い難い。

本講演では同琥珀のハネカクシ相を総括し、とりわけ重要な化石を紹介するとともに、生物地理的な特徴やその他特筆すべき事項を指摘することを目的とした。加えて、未発表の化石もいくつか交え、ミャンマー琥珀のハネカクシに関する今後の研究の展望についても論じたい。

表1. ミャンマー琥珀から記載されたハネカクシ科の概要 (2020年7月18日現在).

亜科	属数	種数
Scydmaeninae コケムシ亜科	15	25
Pselaphinae アリヅカムシ亜科	5	7
Aleocharinae ヒゲブトハネカクシ亜科	3	3
Osoriinae ツツハネカクシ亜科	3	3
Paederinae アリガタハネカクシ亜科	2	3
Solierinae (和名なし)	1	3
Dasycerinae イトヒゲニセマキムシ亜科	2	2
Micropeplinae チビハネカクシ亜科	2	2
Oxytelinae セスジハネカクシ亜科	2	2
Protopselaphinae (和名なし)	1	2
Staphylininae ハネカクシ亜科	1	2
Steninae メダカハネカクシ亜科	1	2
Euaesthetinae チビフトハネカクシ亜科	1	1
Megalopsidiinae メダカオオキバハネカクシ亜科	1	1
Oxyporinae オオキバハネカクシ亜科	1	1
Piestinae ヒラタハネカクシ亜科	1	1
Proteininae ハバビロハネカクシ亜科	1	1
Tachyporinae シリホソハネカクシ亜科	1	1
合計	44	62